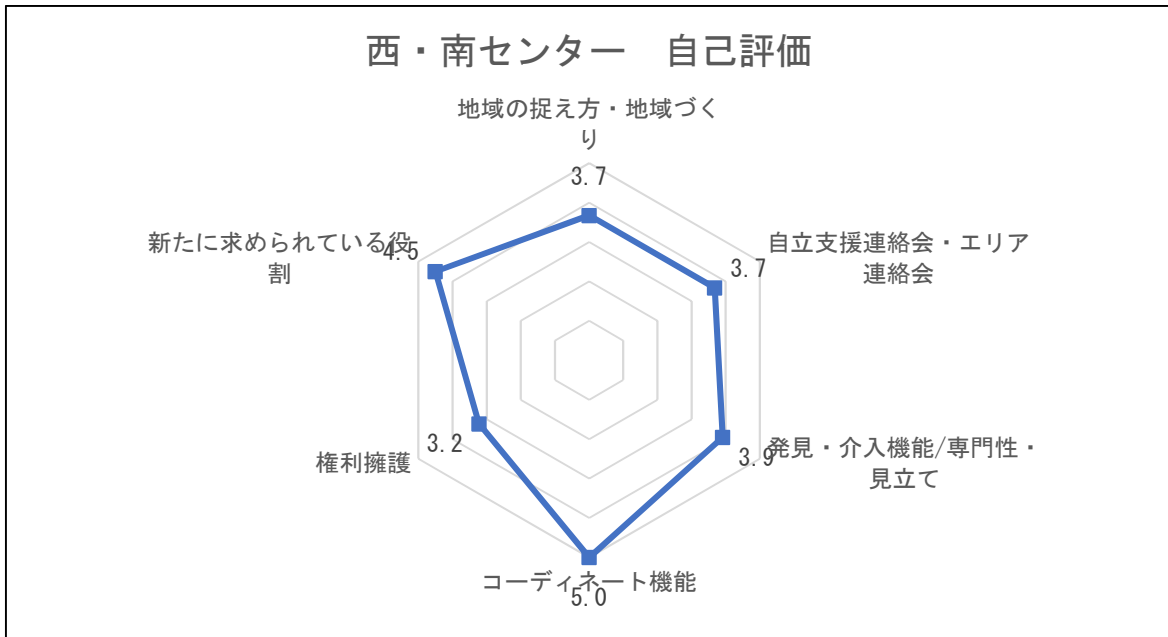


## 令和4年度委託相談評価 西・南センター



### 【総評】

浜松市障がい者自立支援協議会エリア連絡会（以下、エリア連絡会）における協働や機能強化事業の活動を通してエリア内のネットワーク構築が図られ、顔の見える関係性が構築されている。特に計画相談事業所とは事例検討の場や日頃のケースワークを通して連携ができ、良好な評価が得られている。関係機関との連携について、権利擁護が必要な場面においてはより高度な連携が必要となるが、日頃からお互いの役割を理解しセンターとしてできることについての模索・提案をすることで、連携強化につなげていくことが期待できる。センターとして引き続き積極的な姿勢で連携強化に取り組めるとよい。

エリア連絡会においては全体会構成員を含めて活動内容及び活動の目的や効果に関してより一層の理解を得ていくことが求められる。ネットワーク会議の開催や全体会における活動報告など周知のための取り組みの実践は評価できるものであり、継続した取り組みが期待される。協働の取り組みによるネットワーク構築は取り組みを進めるうえでの基盤となり得るものであるため、コロナ禍で活動内容に制限はあるものの、活動へ参加する機会のさらなる創出や全体会における目的と効果の理解促進などに着眼していくことで理解促進につながるのではないかと期待される。

西・南センターは2つの区が担当圏域であるが、南区についてはセンターの事務所が遠方になったことで連携のしづらさを指摘する声が聴かれている。エリア担当制の効果である地域におけるきめ細かな相談支援の実施という点においてはセンターとして苦慮する部分であると考えられる。西区南区と広い圏域をどのように捉えるかといった課題がある中で、センターとしては主眼を置く圏域を検討して区・包括圏域での取り組みを進めている。エリアにおける地域づくりの圏域をどのように捉えていくか、実践を通して引き続き検討を進めていくことを期待したい。

また、センター化による業務量の多さを指摘する意見もあり、個々の相談員による業務効率化は図られているが、幅広い業務内容に対応するにあたり十分な時間確保が困難な状況になっている。